

# 下野市の文化財として オトカ塚古墳が指定されました

思川と姿川に挟まれた地域には国指定史跡琵琶塚古墳・同指定史跡摩利支天塚古墳など県内最大級の古墳が所在します。これらの古墳から壬生町の黒川左岸まで続く古墳群には、国指定史跡吾妻古墳や県指定史跡の愛宕塚古墳・丸塚古墳などがあり、これらの大型古墳は国分寺建立以前にこの地を支配した首長層の墓と考えられます。オトカ塚古墳もこの一連の古墳群の中、天平の丘公園内に築造されています。

オトカ塚古墳は、平成5年度にしもつけ風土記の丘資料館により、墳丘測量が行われていますが詳細な墳形や築造年代については明らかにされていませんでした。17年度の発掘調査により、古墳の全長は周溝の外側と外側で58m、塚の全長32m、周溝幅6m、であることが判明しました。

また、石室は自然石を積んで構築されており、石室長5.5m、石室最大幅1.2m、石室残存高1.4m、墓道の残存長が7mであることが判明しました。

遺物は、墓道から土器が1点出土しただけで、埴輪も出土しませんでした。この古墳は、後円部を北に前方部を南に向けており、帆立貝のような形をしている帆立貝式前方後円墳ということが判りました。また、古墳の景観は周溝の形状や深さなどから西側が古墳の正面だったと考えられます。石室が前方部前端に位置することも特徴で、出土遺物などから6世紀後半頃に築造された古墳と推測できます。

この古墳は、大きさや古墳の形状、石室の構造等から首長墓というよりは、首長に次ぐ身分の人のお墓と考えられます。



しゅうこう  
周溝……古墳の周囲に掘ってある溝



問い合わせ先

文化課 文化財係  
☎ 52 - 1120